

技術士 1 次試験に合格して



重松 琢和

(しげまつ たくわ)

勤務先

株式会社 構研エンジニアリング

環境保全部

〒065-8510 札幌市東区北 18 条東 17 丁目 1 番 1 号

TEL 011-780-3115 FAX 011-780-2832

E-mail t.shigematsu@koken-e.co.jp

■ 専門：環境部門

1. 自己紹介

私は、1992 年に和歌山県で生まれ、中学校以降は名古屋で育ちました。幼いころ紀伊半島の神秘的な自然の中で育ったこと、生き物のテレビ番組が好きだったこと、「自然の叢智」がテーマだった愛知万博が身近に開催されたことなどから、将来は自然保護につながる仕事をしたいと思いました。自然が豊かな北海道に憧れたことから、帯広畜産大学に進学し生態学を学びました。大学ではカヌーで道内の川や自然を堪能するサークルに所属し、道内や東北の各所を訪れました。その時に各所で過疎や不便さに苦しむ町を見たことから、自然保護と地域振興を結びつける道はないかと考え、この業界に進みました。現在は希少生物の保護、エゾシカ対策、外来種対策、森林資源利用などの業務についています。山、森、川、湖、海、果ては島まで。社会人になった今でも 1 年中道内各地を飛び回っています。

2. 受験に至るまで

私は「技術士」という言葉を就職活動中に知りました。同時に、建設コンサルタント業界では「技術士」が業務の受注等に必須の資格であることも知りました。入社後、改めて「技術士」が会社のみならず、自身のためにも重要な資格であることを認識し、受験を決意しました。

3. 受験体験

入社 1 年目ということで、できるだけ多くの現場にでかけたことや、環境調査が夏に集中していることから、8 月が終わるまではほとんど勉強できませんでした。また、8 月末～9 月には平成 28 年の台風災害が発生し、その対応にあたったことで勉強時間が確保できず、ただただ焦りばかりが募っていました。ようやく受験勉強を始められたのは 10 月に

なってからというスロースタートになってしまいました。

そこで私は、勉強を過去問を解くことに絞りました。ホームページから各科目 5 年分の過去問を取得し繰り返し取り組みました。間違った問題だけではなく、正答した問題も除外した選択肢の何が間違っているのか、正解なのかを一問ずつ文献やインターネットで調べました。特に改訂があった絶滅危惧種指定状況や、環境に関する条約などは、自己の認識を改めなければいけませんでした。最終的に過去問を解きなおしたときに、各問題の各選択肢で何が違って何が合っているのか自分の中で解説できるようになりました。

私は高校以降、物理を未選択だったため、基礎科目でとても苦労しました。限られた勉強時間の中で過去問から頻出問題の公式や解き方を可能な限り暗記しました。

以上のような勉強を 5 日間、1 日あたり 8 時間行いました。上司や先輩からのサポートもあり、受験直前には初見の過去問や類題でも合格点以上がとれるようになりました。受験当日は、会場を間違えるハプニングもありましたが、平常心で落ち着いて取り組むことができました。適正試験で苦戦したものの、何とか全て合格基準を上回り合格することができました。

4. 今後に向けて

20 代の間に 2 次試験を突破することが目標です。そのためには、多くの業務に積極的にに関わり、様々な経験を積み重ねていくことが何より重要だと思います。今回の試験で学んだ技術者倫理や知識を都度振り返り目標に向かって日々業務に取り組んでいきたいと思っています。